

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-61	14-110	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
A prospective study of alcohol consumption and renal cell carcinoma risk. 飲酒と腎細胞癌リスクの前向き研究		
<b>執筆者</b>		
Karami S, Daugherty SE, Purdue MP.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2015 Jul 1;137(1):238-42. doi: 10.1002/ijc.29359.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
腎細胞癌、性別、アルコールの種類、喫煙		25431248
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 飲酒は腎細胞癌(RCC)リスクを下げる可能性のあることが、近年の疫学研究で示されている。しかしながら性別やアルコールの種類により違った報告がなされている。我々は飲酒と腎細胞癌リスクとの関係をより理解するために、Prostate, Lung, Colorectal and Ovarian (PLCO) Cancer Screening Trial のデータを用いて解析を行った。</p> <p><b>方法：</b> PLCO Cancer Screening Trial の参加者 107,998 人を 2010 年まで追跡し、Cox 比例ハザードモデルを用いて、飲酒のハザード比 (HRs)と 95%信頼区間(95%CI)を解析した。その際年齢、性別、人種、研究センター、高血圧、body mass index、喫煙状況を調整して検討を行った。追跡期間中に腎細胞癌は 408 人で発症した。</p> <p><b>結果：</b> この研究の被験者では、非飲酒者に比べ、飲酒者で飲酒量の増加は腎細胞癌リスクの低下と関連していた(9.75 g/日以上で HR : 0.67、95%CI : 0.50~0.89、傾向 P= 0.002)。男性・女性共に、また、アルコール飲料の種類別でも同様の傾向があった。喫煙状況における層別解析では、元喫煙者において飲酒量と腎細胞癌は同様の傾向であった (HR : 0.51、95%CI : 0.36~0.73、傾向 P&lt;0.0001) が、非喫煙者ではこの関連は認められなかった(HR : 1.08; 95%CI : 0.66~1.76、傾向 P= 0.78; 交互作用 P= 0.01)。</p> <p><b>結論：</b> 性別やアルコール飲料の種類にかかわらず、飲酒が腎細胞癌リスクの低下と関連していることがこの研究でさらに支持された。喫煙との交絡は新たな知見であり、今後の研究で確認する必要がある。</p>		